



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 40

PROFILE

1984年神奈川県出身。14歳でモデルとしてデビュー。バラエティーや音楽番組、イベントの司会など幅広く活躍中。2011年11月より「未来世紀ジパング～沸騰現場の経済学」(テレビ東京)のMCを務める。東日本大震災復興支援チャリティーイベント「ラフラブ(Laugh&Love)」を主催し、岩手県大船渡市に子どもたちの遊び場「ラフラブハウス」を建設するなど、社会貢献活動にも積極的に取り組む。



© 柳瀬博一

ニッポンの貢献力を知る

タレント SHELLY

シェリー

この仕事を始めたのは、国内外関係なく、何か女性のためになることがしたかったから。国際協力にもずっと興味があったのですが、募金や洋服の寄付だけで、開発途上国に足を運ぶ機会はありませんでした。

日本が海外でどのような活動をしているのか、具体的に知るようになったのは、「未来世紀ジパング」のMCをやらせていただくようになってからです。まず驚いたのが、日本が途上国に対してここまで大規模な支援を行ってきたということ。災害が起こったら医療支援に行くとか、水不足で困っている地域に井戸を掘るとか、そういうイメージが強かったのですが、国の経済発展を見据えて、道路や橋、港などのインフラ整備を地道に進めてきたことに感銘を受けました。

そんな現地からのレポートをスタジオで伝えているうちに、自分も現場に行きたいという思いが強くなり、去年は何度か取材に行く機会に恵まれました。その一つがバングラデシュ。もう何か月もゼネストなど情勢不安が続いている国だっ

たので、少し緊張して向かいました。

首都ダッカの空港に着くと、フェンス越しにたくさんの人が見えました。聞くと「あれが娯楽なんだよ」と。飛行機を見ながら、自分の知らない異国に思いをはせているようで、複雑な気持ちになりました。一方で、街中のマーケットはごちゃごちゃしているのですが、どこかゆったりとした雰囲気。みんなが忙しくしている東京の人混みとは違う温かさを感じました。

各国の企業が展開しているソーシャルビジネスの取材では、現地の人たちの生活に見合った価格で、品質の良いものを提供しようという取り組みを見ることができました。日本のアパレルブランドの店舗にはバングラデシュの民族衣装もあり、現地スタッフの方は「日本企業で働けることは誇りだ」と話してくれました。バングラデシュが独立した時、日本は先立って国家として承認した国。日本に対しての信頼が厚いことを知り、とてもうれしく、私自身も生まれ育った国を誇りに思いました。もっと日本の中小企

業が進出して、両国でwin-winの関係が繋がってほしいです。

日本の教育では現代史を学ぶ時間が少なく、特に若い世代の人たちは、こうした日本と世界の関わりへの関心が高くないように感じます。でもそれは、とても損をしているのかもしれない。知ることによって広がる世界を、もっともっと、たくさんの人に感じてほしいのです。

「何か人の助けになることをしたい」。そう思っている人は少なくないはず。私も東日本大震災の後、思い切って行動を起こしたら、周りに助けてくれる人がたくさんいました。国際協力に興味があるのなら、一度、そう声を上げてみてはどうでしょうか。きっと一緒にやりたいと言ってくれる仲間がすぐそばにいます。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索